

“大切な花”を咲かせよう

保育所等訪問支援通信NO. R6-5



子どもの発達支援施設
つつじが崎学園

いよいよ師走。寒さも本格的になってきました。発表会のシーズンにも入り何かと気忙しくなりますが、体調に気を付けながら元気にすごしていきたいですね。

さて、今年度は様々なテーマでお便りを綴ってきましたが、今回は「食具を使うこと」についてです。園によっては、箸を使うことに取り組むところもあると思いますが、楽しい食事時間にしながら、生活動作をサポートしていけると良いですね！



☆☆ まづは、食具を使う練習の前に確認してみましよう ☆☆

● 椅子にしっかり座れていますか？両足は、床に着いていますか？

まだ箸を使うことが難しいお子さんは、体の使い方が苦手な子がほとんどです。それをサポートするためにも、両足をしっかり床に着け、体を安定させることが大事です。本人の体に合った机と椅子を使用しましょう。椅子の高さが合わなければ、足元に足置き台（牛乳パックを束ねたものでも良いですね。）を用意します。これにより、自然と体が安定し腕や手を操作しやすくなります。また興味のある遊びを通して、椅子に座り、手や腕を動かす時間を作るのも大切です。

● スプーン・フォークは、どんな持ち方をしていますか？

食べ方の基本は、まずは手づかみ食べから！手掴み食べを十分に経験し、指の機能や物を口に入れる感覚などを習得します。人差し指と親指で物を摘まめるようになったら、スプーン・フォークを握って食べられるようになります。最初は食べこぼしも多いです。食経験や、制作、アスレチックなどの日々の遊びを通して徐々に高まっていき、手先や手首、腕、上半身の機能が上達していきます。

《持ち方の発達 どんな持ち方をしているのかな？》



上からの握り持ち



下からの握り持ち



三指持ち
(鉛筆持ち)

● 両手をうまく使えていないことも！

食事の時に器を持ってほしいと考えますが、体を動かすことが苦手なお子さんは、左右の手の役割（食具を使う。反対の手は器を持つ。）を分けることも難しいのです。器が動いてしまうようなら、底にシリコンのついた器を使用したり、濡れた布巾の上に器を置いたりすることがおすすめです。器を固定させ、食具を使う手に集中できるようにしてみましよう。両手が上手く使えるためには、全身の支持性やバランス、左右の強調した動きの発達の他、先にも記したように安定した姿勢の保持が大切です。

● 力のコントロールが苦手？

力が弱かったり、入り過ぎて上手く持てなかったりして、操作出来ないことがあります。力が弱い場合は洗濯ばさみ等で指先の遊びを楽しんだり、入り過ぎの場合はジェンガ等の遊びで力の抜き方を学んだりしてみましよう。

● 身体のイメージが捉えにくい？

手掴みは、どのように食具を動かしたら良いのか分からなくて上手く掬えないことから起こります。食事はプレートではなく、小鉢等に取り分けて食べましょう。掬う際にスプーンが壁に当たり、掬い易くなります。

《箸を使いたい！意欲は大切に！》

お箸はスプーン・フォークの三指持ちが出来るようになってから練習を始めると上達が早いです。しかし、手の機能が未発達の時でも大人や友達の真似をして使いたがる時がありますよね。その時は、子どもの意欲を大切にしながら摘まみ易い物で練習して成功体験を増やし、自信へと繋げていきたいと思います。



参考書籍：「発達が気になる子への スモールステップではじめる 生活動作の教え方」 鴨下賢一

苦手な「できる」にかわる！発達が気になる子への生活動作の教え方 編著◎鴨下賢一 著◎立石加奈子・中島そのみ

《補助箸のおはなし》

最近は多くの種類の補助箸があります。トレーニング箸に慣れてしまうと、通常の箸を使う時の力加減が分からなかったり、動かし方が分からなくなったりすることもあります。トンクの様にバネの付いた箸は、本人の意思に関係なく自動的に開くので、箸を開く動きの練習には向きません。補助箸は決して悪いものではなく、上達する手助けになります。使う際には子どもに合ったものを選びましょう。

《 保育所等訪問支援研修会 》

11月19日(火)、県立文学館において保育所等訪問支援研修会を行いました。幼稚園・保育園・こども園・療育関係者・相談支援専門員・保育所等訪問支援の支援員の方々にお集まりいただき、“多様性を認め合う保育”をテーマに事例発表（幼稚園の先生・訪問支援員）をお聞きいただきました。その後、小グループに分かれて情報交換を行い、それぞれの園の現状や悩み、対応方法を共有することが出来ました。アンケートには、『同じ悩みを共有でき、元気が出た。』『今できることを考えていきたい』『多様性を認め合うことを、子ども達の方が“当たり前”と捉えていた』等、多くの感想をいただきました。保育現場で子ども達を支える先生方や支援者にとって、道標や励みの場になるよう、今後も研修会を企画・開催していきたいと思っております。



～感染症の対応についてのお願い～

日頃より訪問支援へのご理解とご協力ありがとうございます。コロナウイルスを始め、マイコプラズマ肺炎、手足口病など、様々な感染症が流行しています。引き続き、訪問前にはお電話をいたしますので、互いの園の健康状況を共有させていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。又、懇談時間は感染対策として30分間とさせていただきます。状況によっては時間内に終了することができないこともあり、先生方にはご迷惑をおかけしています。今後も時間内で終了できるよう努めて参りますので、よろしくお願ひいたします。

児童発達支援センター つつじが崎学園
地域支援事業部 保育所等訪問支援
〒400-0013

山梨県甲府市岩窪町6 1 4 番地

Tel 055-251-7678

Fax 055-251-7679

Mail ooshiba@tutuji.or.jp

担当：吉岡かよ 大柴知子 岩下詩歩